

## 地域メッシュについて

一般的に統計データは市町村などの行政区域を単位に集計されるが、市町村合併等により市町村が変化することや市町村の大きさに大きな差があることから、時系列でのデータの比較や地域の比較を行う際に不都合なことがある。このため、永続的で大きさの差が小さい、市町村よりも細かい単位で詳細な地域分析ができるよう、緯線経線で区切った地域メッシュが考案され、地域メッシュ単位で集計されたデータが整備されている。

地域メッシュは、緯線・経線によって囲まれたほぼ長方形の区画である。経度（東西方向）1度、緯度（南北方向）40分の範囲を1次メッシュという。メッシュのコード番号はメッシュの南西隅の「緯度×3/2」（2桁）+「経度-100」（2桁）の4桁の数値とされている。次ページの図の東京都や神奈川県の一部を含む1次メッシュは、南西隅が北緯35度20分、東経139度なので、 $35.333 \times 3/2 = 53$ 、 $139 - 100 = 39$  からコード番号が「5339」となる。

1次メッシュを縦横8等分したものを2次メッシュ（約10km四方）、2次メッシュを縦横10等分したものを3次メッシュ（約1km四方）という。3次メッシュは1kmメッシュとも呼ばれる。メッシュのコード番号は、1次メッシュのコード番号に、メッシュを分割するごとに、縦方向の番号と横方向の番号を付け足していく。2次メッシュは6桁、3次メッシュは8桁になる。下の図の右上の3次メッシュの番号は53393393となる。3次メッシュまではJISで定められている。

国土数値情報の土地利用データや簡易100mメッシュ人口では、3次メッシュをさらに縦横10等分したものを100mメッシュとしており、コード番号は同様に、3次メッシュに2桁付け足した10桁の数値としている（次ページの図の右下の色を付けたセルが1つの100mメッシュ）。

一方、国勢調査や経済センサスの統計では、3次メッシュを縦横2等分したメッシュを4次メッシュ（500mメッシュ）、4次メッシュをさらに縦横2等分したメッシュを5次メッシュ（250mメッシュ）としている。

